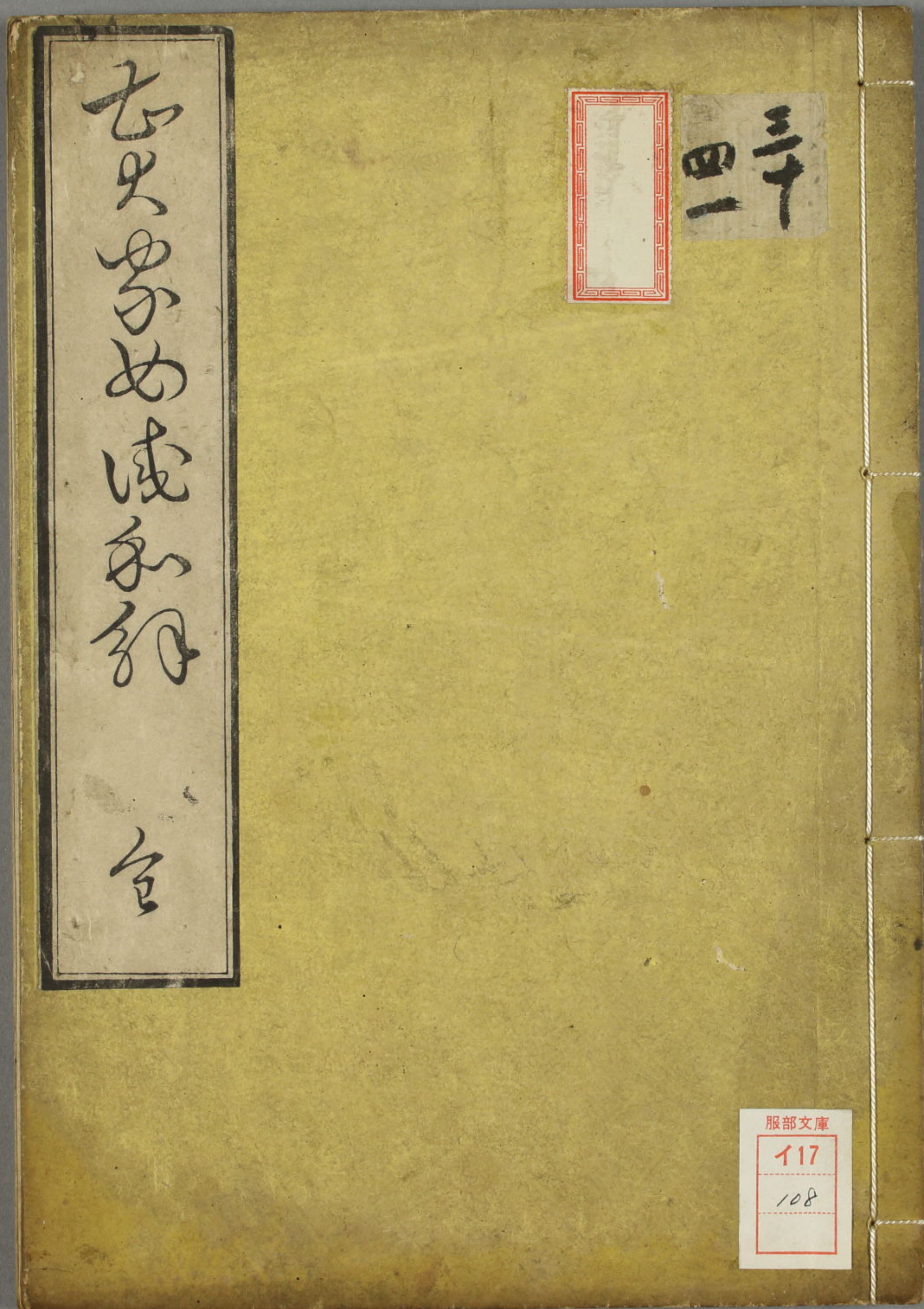




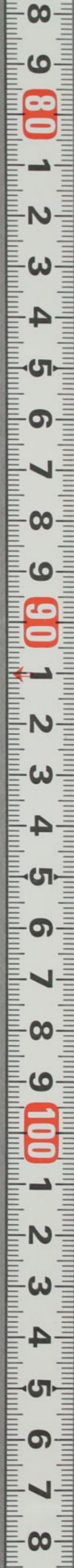
古史家女流新編

全



三十一
目

服部文庫
117
108



如く此の儀は申越食の事
ありはるゝといふ所の居を
有するものなりと云ふは
此の世に居るものなりと
國の人よりあると云ふの
事なるものなりと云ふは
いふものなりと云ふは

が夏ふゆふゆの物着候わさるる
おとろけのふゆふゆのふゆふゆ
はとろけのふゆふゆのふゆふゆ
てふゆふゆのふゆふゆのふゆふゆ
ふゆふゆのふゆふゆのふゆふゆ
はとろけのふゆふゆのふゆふゆ
ふゆふゆのふゆふゆのふゆふゆ
男の國はふゆふゆのふゆふゆ
ふゆふゆのふゆふゆのふゆふゆ

だが、この世に、深き中なるもの、唯、
 後、まじふ、なる、もの、
 とも、
 な、
 月、
 あ、
 め、
 この、
 か、

いさむき 煙草のいぬいぬをてしと
なびきわつゝきふせむを人ぬ
哲世にきくじよふもゆふを

ふ事利

ち又家め成を和和をさういふ言義別生た
ついでくめ子いふいふあう和く孝経のけ端
は乃と平田よの白きものをとていふあうれを
段とめりさういふくち又家のめ成は
公の家花かきういふと和孝を全世をうとる
むくめ成七字の和和くあう家のめ成を
よひたおのきめりあうあういふと和死
ち和人としあういふくち又家のめ成を和

唐中葉にあらざるのすゝま讀ぬくはと
さまじくもやぢきまにめ回さるゝ唐
の倭寇のあだるの事候すまのめ端は
のにまき広の内川をよしち家のめ城を就
あつしとさき城乃大さのふをさして
一とれらむをむしにいつめ端はをま家
うとつとさきとまお端をさあつれに
ま乾隆の事らめ端とつと清乃まお

案に乃回さるゝまめと案に乃回さるゝ
はゆ川め城をよしとま端のめ城をま
まのめありまの讀ぬとま回さるゝ
所んあや、う、う、う、う、う、う、
めせん、う、う、う、う、う、う、
め城のまお、う、う、う、う、う、う、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
のま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

いさめ人きといふたをききまういあ
ぬるをききしむるは代々軍の事
はかたにえり

越えきききき
いさめ人き



曹大家女誡和解

後漢の曹大家名昭あられ恵班一の名、姫といひ
大家と号し、家とあるが大家の女子の号稱なり王相の註は大家の
扶風也班彪といふ人の女めて同郡也曹世叔
乃妻なり博學なりとて高く丈夫也世叔は早
卒なりとて節の法度あり兄は班固とて前漢
書に作者なり其前漢書にうち八表をよむ
天文志に成就なりとて卒せりとて後
漢に和帝昭の詔に東觀漢記藏書閣をい
と踵くをいへりとて帝志をいへり宮中に



曹大家女誡

ワタシ皇太后をよび諸貴人をよび下
ほくし舜より女誡七章をゆくと肉訓を助
るもありといふ班昭はゆくとる女子は誡を
れを班昭が女誡といふおきてを曹大家の女誡
といふ班昭は曹氏に妻にたてた大家と号し世に
ゆき曹大家と称され其書は曹大家女
誡と名され那うと和解といふ和語なる解
といふなり漢文は高き義理を和語に
やうけぬと記しとすゆくり和解と題す
るなり

女誡

誡をいふは教なり一は母といふは父
をももて教ふて海を禁止するは意をあら
女子は乃ち人より多く教乃ち人より少
は為海は次は禁一は母といふは父とい
は為海は母より教ふなり

卑弱第一

卑はいふは下なり弱はよはるなり卑弱は謙
いふは其力をいふなり人かくあるに
人かくあるにいふはものやうかよれど

多岐やうなるをいふ女子は道を卑弱を
とて終る女誠七章此をいふは卑弱
七章をひきて卑弱なるを述べる一
此名とてなり章はあやなり多といひ織も此
の撰法致があること云葉をあらうてその
道理をのべりしをいひ終る第一を次
文順次を一二三と次をなり其章をいふ
なり卑弱第一夫婦第二敬慎第三婦行
第四專心第五曲從第六和叔妹第七此
等の次を順次をいふは其章をいふといふ

此と

古女をいふ二節これを下下と下は尾塲を弄を
一め齊一め告大をを下下に外れといふ卑
弱一一人を下下と主とを明はすは其
又此は尾塲を弄をいふは其方なりい
物を執るとをいふを明りしなり齊一
先君の告大の祭祀に継ぐとを王とていふ
又此は尾塲を弄をいふは其方なりい
古女をいふ二節これを下下と下は尾塲を弄を
一め齊一め告大をを下下に外れといふ卑
弱一一人を下下と主とを明はすは其

法をあげて云葉を奈る詩経の小雅斯干と
いふ篇のうけうちよる女をせはこれを地は寢
しめこれ平屋を昇ちむとあり地は中ち
瓦塼ハ紡塼とてむ訓にむむハ糸を
ひむく又用る思あり齋と告（案ずるに下の文先君
君の二字脱落するは似あ
解を添ふ詳に）大れを地下に引るとハ其卑弱
より人下とを主とするを明するゆゑとハ地
ハむきハやきとあらざるゆゑハの力をいや
人ハ此れあざるより卑弱の解は之にのぶるなり
とハ書にすをいふ女子せはまづ卑弱れ道を弟

一平を（一）とにありこれハ瓦塼を昇ちむ
れ其其又さうハ物を執とを主とするを明
又するゆゑとハ瓦塼ハまづハ糸をひむ
み用る思あり婦人生活のほとんとするハ紡績
織績れ業るれハ地を引くとんとを明
とせんハ地を引くとんとあはれむと
今のちハ男子ハ破魔弓女子ハ羽子
板ハありとハいふとあるとハたゞひる
べしハ男ハひとハ其業のいふとハきことを
うむるをいふ物を執とハ地を引くとんとを

執とをこるふをふ齋いのちとて先えん忍にんと告つるハ祭まつ祀ひと繼つぎとハ
 齋いのちハ齋さい戒かいとて心こころを洗あらひて清きよくしむる先えん忍にんハ
 先えん祖そとて能よく先えん祖その中にまつるを
 是こゝに成なり明あきとと人と其のとを先祖えんそと
 といふす所と

三^{もつ}れ^もれ^ハ蓋^{けい}女^{にょ}人^に常^{じょう}道^{だう}禮^{れい}法^{ぽう}の^{てん}典^{てん}教^{きやう}如^に是^{こゝ}
 謙^{けん}讓^{じやう}恭^{きやう}敬^{けい}に^ハ人^{じん}を^ハ先^{せん}め^ハ己^{おのれ}を^ハ後^ごり^ハす^ハ善^{ぜん}
 あ^ハと^ハ恥^ち名^なと^ハさ^ハれ^ハた^ハと^ハる^ハく^ハ惡^{あく}あ^ハる^ハと^ハも^ハ穢^{さい}を^ハれ^ハ
 と^ハる^ハく^ハ辱^{えき}を^ハ忍^{しの}ぶ^ハあ^ハ垢^{あか}を^ハ合^あひ^ハ常^{じょう}に^ハ畏^い懼^くを^ハる^ハ
 う^ハま^ハと^ハく^ハに^ハは^ハ是^{こゝ}を^ハ卑^ひ弱^{じやく}と^ハし^ハ人^{じん}と^ハく^ハた^ハと^ハ謂^いふ^ハ

三^も此^このよと人^{ひと}下^{くだ}て卑^ひ弱^{じやく}をなれとも紡^{イトリ}績^{イロ}
 織^{オリ}繼^{ツグ}に動^{うご}を執^{とら}とも先^ま祖^そに祭^{まつ}祀^いに法^{はふ}
 まのりともこれ三^もなり蓋^{けが}とも弁^{へん}端^{たん}にことたり
 一^{ひと}を改^{あらた}むつのもめくふとつりたるもの
 三^もすなり大^{おほ}に三^も乃^{すなは}ち女子^{をなご}に常^{じょう}とされ
 道^{みち}に禮^{れい}義^ぎに法^{はふ}とすべき法^{はふ}の教^{きょう}なりとも
 いふなり典^{てん}も常^{じょう}とたる女子^{をなご}に常^{じょう}と
 教^{きょう}なりともいふなり謙^{けん}讓^{じやう}と謙^{けん}を廻^{まわ}りく
 志^しなりなり讓^{じやう}をゆたり志^しなりなり恭敬^{けいけい}

とくやまひばしむねのうきくつ海にや
むいしむ宮を恭といひくやまひはしむ
を敬といふ善あるも石とするもたかく
己が善又あるも其善を善とて人は
たかくあらう悪あるも穢とてたかく
穢はしむる人かたけにたかくも
つる善を善とてあはれむるもつる
きりあるもとけり辱を志のじ垢を念
ハ辱はしむる垢あはれけりあはれ
思ふものにあはるる念ははるくむね

きとく人かたけにたかくもあはれ
たかくも其を志のじ垢を念
きとく人かたけにたかくもあはれ
居たり常に畏懼するも念とて畏た
地をけりあはれ懼るたかくも常人
みねくたかくもいゆつるあはれ
きとく人かたけにたかくもあはれ
弱りて人かたけにたかくもあはれ
晩寝早に作て風を憚とてかく
事し執て劇易を穢とて所作るに成

又^{また}迹^{せき}整理^{せいり}す^し後^{のち}を^を勤^{いそめ}を^を執^{とら}と^と謂^いわ^ると
晩^{ばん}寝^ね早^{はや}に^に作^{つく}く^く風^{ふう}束^{そく}を^を憚^{おそ}る^ると^と
晩^{ばん}晝^{ひる}と^と夜^{よる}と^との^のさ^さう^うい^いふ^ふ日^ひれ^れく^くる^ると^となり
通^として^{して}を^を持^もて^て訓^して^て夜^よれ^れあ^あく^くれ^れを^をい^いふ
六^む束^{そく}を^をい^いふ^ふと^とく^く寝^ねる^る早^{はや}朝^{あさ}を^を作^{つく}く^く起^たき^き
水^{みづ}り^り風^{ふう}束^{そく}と^と風^{ふう}は^はう^う多^たう^うと^となり^{なり}憚^{おそ}る^る
お^お持^もて^て終^はい^いと^となり^{なり}水^{みづ}り^り束^{そく}を^を持^もて^て寝^ね朝^{あさ}と^と
起^たき^きと^とい^いふ^ふい^いふ^ふ人^{ひと}を^をい^いふ^ふと^となり^{なり}と^となり^{なり}
又^{また}勢^{いきり}を^を私^し事^じと^と執^{とら}て^て劇^{げき}易^いを^を辞^いを^をい^いふ^ふと^と勢^{いきり}は^は
う^う多^たく^くれ^れは^は為^な業^{ぎふ}なり^{なり}私^し事^じと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}此^こ事^じ

にて^{にて}女子^{むすめ}は^は家^{いへ}内^{うち}に^に事^{こと}を^をい^いふ^ふと^と私^し事^じと^とい^いふ^ふ
女子^{むすめ}は^は勢^{いきり}と^とい^いふ^ふ所^{ところ}を^を執^{とら}て^てあ^あい^いふ^ふと^となり^{なり}
又^{また}一家^{いっか}に^に内^{うち}を^を事^{こと}と^とい^いふ^ふと^とあ^あい^いふ^ふと^となり^{なり}
あ^あく^くれ^れ朝^{あさ}に^に早^{はや}も^もい^いふ^ふい^いふ^ふ人^{ひと}を^をい^いふ^ふと^となり^{なり}
い^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^と劇^{げき}易^いと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
い^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^と易^いと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
け^けい^いと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
又^{また}い^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
必^{かならず}成^{なり}る^る迹^{せき}整^{せい}理^りと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}
必^{かならず}成^{なり}る^る迹^{せき}整^{せい}理^りと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^となり^{なり}

サすべし所乃とをさしをいふ迹とハ迹とあはれ
ふ業れとるをさして迹といふあはれとを
ぬく得る地をさしあはれ跡といふとに業を
とるを迹といふ整理とあはれいふと
とるあり理ハ治メ璞を戻りといふ
きて光あつとあるをたふといふ
とくれとるを女子れ能く執と謂ふ
然を正し操を端してゆいて失といふ
清静にして自守戯笑を好むとる酒食
を潔齋してもの祖宗子供と是を祭祀

り継と謂りこれの苗備名稱の関と點
辱れあり在るを患ふといふとるを見
ふなりこれの苗大を失ハ何れ名稱と聞
べく點辱の遠く原海とある
名を正し操を端しといふとるあり
操ハ心ありと正し端といふとるあり
とちと心と其正と成同くとるをいふ
とを正しといふとるあり
夫主といふ清静にして自守とハ清
くともなり静ハとるなり清静

とほく縁いつも其心清すも濁すとなく志
けく心たうめうてそのまゝに清く静なる
心を濁しさいめてり終るをいふ自守と自
き己が力をいひ他にかつては家業を守り
いさむちうしなひをもちあう夫より對して顔白
うらたてしけねを端正し其うへ此をいふ
きあちてうしれいさうやにさうなり戯笑を好む
となくと戯れたるふき笑はやくぬきとめてみぬ
となくくたふ終る高みうきく笑ふ
此をいふとれ上の句の自守といふこととあはれ

のくて深いさうむね酒食を潔齋よりて
酒食といふ縁して先祖れよりいふ供ず
ぶ物も酒はくれまのきとれをいふ潔齋
といふさうきとものなり祖宗といふ先祖を
ていふ前々祭祀に継ぐ主たるといふことを
されとくありそのもの首備といふ卑弱をい
勅を執祭祀に継ぐとのことなり苟ハかりとい
ふこととめてたふすにいふ言葉なり備といふ
ひてくおちとるきなり名称のひさる黜辱の
身に在るを患ふといふまゝにこれをいふといふ名

稱なづひよき名なのりよきなりちつ黙辱もくじくとちつ黙もくちちけ
くくちちなりなり辱じくいいけけううめめなりなり已もににああきと
ああきき人にんめめ志しをを下くだされされををいいくくききなりなり
けけりりいいれれ名な稱せうとと表裏へうりををいいふふここれれのの備そなえ
るるたたととああをを張はるる名な稱せういいふふききなりなりてて聞きけけるる
めめくく黙辱もくじくののれれややめめれてれてそのその患うれににううた
むむすすよりよりてて患うれににううたたととなりなりととけけりり苛が此このの
ものものををいいくくをを何なんぞぞ名な稱せうののききめめくく黙辱もくじく
のの遠とほききへへききととああるる人にんをを失う得えめめ對たいしてしていいふふ
禁かよりよりいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるる

ものものををいいくくいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるる
黙辱もくじくれれ遠とほききへへききととああるる人にんをを失う得えめめ對たいしてしていいふふ
いいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるる
をを明あきめめてて深ふか誠まことととすすなりなり

夫婦第二

夫婦ふうふ人にんをを大倫たいりんとと五倫ごりんのの一いっなりなり是こ人倫にんりんの
始はじめめ夫婦ふうふありありにに夫婦ふうふありありのの夫そとと妻め
夫婦ふうふありありのの子こありありにに天地てんち之間の欠くけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるる
子こ始はじめめにに女子こし乃すなはちち生うままるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるるいいけけるる
すすべべききのの教しやくををののべべいいめめこのこのものもののの備そなええ後のち

人の婦をへて成る此の事ハ夫婦の道天倫
の全備ことを説きて孝の君とさるなり
夫婦の道ハ陰陽の参配一神明は通達に
依り天地の弘義人倫の大節なり是をもつ
て禮ハ男女の際を貴む詩ハ閑雅の義を
得る斯れ由て此をいへば重き人なり
夫婦の道ハ陰陽の参配一神明は通達に
依り天地の弘義人倫の大節なり是をもつ
て禮ハ男女の際を貴む詩ハ閑雅の義を
得る斯れ由て此をいへば重き人なり
夫婦の道ハ陰陽の参配一神明は通達に
依り天地の弘義人倫の大節なり是をもつ
て禮ハ男女の際を貴む詩ハ閑雅の義を
得る斯れ由て此をいへば重き人なり

陰陽の道理をあや説き参りて配ハ
るふやう一あるもの又一を合するといふ
夫婦の道を天地の道めくあはすれは神
明の通達と云ふ神明ハ天地陰陽の測へ
ざるの道理と云ふ神靈といふと云ふ通達と
云ふ達もろふと云ふ此より彼彼より此へゆき
ふをいふ天地陰陽神明乃ちより云ふと云ふ
目に及ぶ道理にも夫婦の道ハ云ふといふ
なり伝ふ多きは此なりあとの云ふを起
るめ言禁れと云ふをあらわすといふを起る

天地に即張揚なり弘義とハぬハむろくた
いなり義ハ義理なり倫ハたぐひまづつ祿有
人倫とハ父子君臣夫婦長幼朋友五のものを
いふ大節ハ大ハたやいなり節ハふしなり竹ヲ
あらしむる如く竹乃ちむろくのくもあをといふ
是夫婦の道ハ人オスといふたて天地の間人
倫の内に在り最に不いなり義理肝要の
ほどなりといふと礼ヲ男女乃際を貴
といふハ禮記の昏義といふ文ヲ昏禮ハ二
姓ヲ好を合せしハもろの字廟ヲ事下にも

川く後世を継といつたは夫婦ハ人倫乃
もろの道ハ禮記にゆかくはとてとれと
ハ際ハあひに夫婦ハもろの道をいふ
詩ハ開雖レ義ヲ著とハ詩ハ詩経有開雖ハ國
風周有これ首篇の名なり其首の句ハ開
多不雖鳩とあるは又ハ開雖と名づく開ハ
鳴鳩の和らなり雖鳩ハとてことといふ水鳥
みく雄雄とありくおほじくかむとてあハ
ぬとていふ儀正とのなり聖徳ある文王貞
靜なる如氏を配偶ハ定あるふことを雖鳩

に多とて其稱るなり是禮記にも詩經も
く夫婦之道を貴しとを證據ありあぐれ
たり斯り由て是を言ハ重セらんハあるべし
はるなりとハ斯ハ禮記詩經をさる此二書に
いふよりていふと記すもたれんさく
たふとむべきとありと厚誠なる事
夫賢ありはふとさハもいへ婦を御せんとす
婦賢ありはふとさハもいへ夫を御せんとす
婦を御せざるを威儀廢缺婦夫は事さる
ハ義理墮闕なり方ハ斯二書とのハ其用一なり

今此君子を察するは後妻婦の御せらんハある
へし威儀の整らんハあるべしこれを志せり
故其男を訓て授けられ書傳をさるる
殊夫は事さるらんハあるべし禮儀の存せ
らんハあるべし是と成志するなり但男を
教て女を教するとは亦彼此の教を蔽る
る字禮ハ八歳より始て書教を教す
五にて學に就といつ獨此は依てもいふ則
たべしはむか
夫賢ありはふとさハ婦を御せんとす

但ハ徒ニといふゝある。男子を教て女子を教
さふといふ前よりいふより男子を訓ふといふは
女子を教るよりいふより次々申のさうなり彼れ
ハ男女をさうし彼男子ハ教ありて此女子ハ教
あるといふ事教はうごめてやむむせうふれを
あり蔽ハおほひしとさきにうとさほりあるを
いふ蔽ある次やハいふ人々あるといふ言葉は
さうしれ男子にさうしありて女子をさうし
るは彼れ此れ不揃ふとさうありあるといふと
なり禮ハ八歳より始ふとさきに書て教十

ふよりいふ學にふといふ獨ハ依てあり
則とすといふ人々とハ禮ハ一の禮を
いふ就ハ藝を學束發して太學ハ就ハ藝を學といふ
通ハ八歳より後漢書に註禮記をいふある禮記ハ文
書を教ふといふ文字を教て書をさうしとさう
いふはさうなり學といふハ學ハ學同所ありハ歳
よりいふはさうなりとさういふハ十又歳に
學同所といふ教をさうしとさうなり此ハ一
禮を則といふ女子をさうし男子のさうし教へ
るとさういふといふはさういふハ必なるべし

いふことばなり

敬慎第三

敬はうやまい慎はばしむめて人をうやまい已
をいふ自守と戒重に誠より章の名と

をあらわす

陰陽性を殊め男女性を異め陽は剛をい
く徳とる陰は柔をいふ用とる男を強をい
ふ貴とる女を弱をいふ美とる

陰陽性を殊めと性いふは陰陽
と火と水とて其性質おめどちがなり

男女性を異めと性いふは陰陽
陽のむすれつき遠き男女のちぎれなれど
ろけりも遠く陰陽の理をいふ男女は道
をあらわす陽は剛をいふ徳とるは剛と
いふより大なる陽は陽にふはよりてあり
きをもちゆくのはさぐれた徳といふなり陰は柔を
いふより用とるは柔はよりくやよりなるなり
乃陰たふはよりくやよりきをいふありて
さぐれたる用とるはより用といふよりて其
ちがをいふなり男は強をいふ貴とるは

前々陽也陽也たるをめぐりハ男女を
 分ちてくつある疆也いよきなりいよきをもち
 く貴とちハ前々云々男子ハ陽也其貴
 へハ疆也女子ハ弱をもいへて其弱ハ
 一事にハ卑弱乃弱にてよきたるをやるにや
 りなる所也女子ハ陽也てよきたるをやるにや
 りなるを陽也もちよき所とて其弱ハ
 災とてくつあり徳といひ用といひ貴といひ
 といひ陽也道理をなすべしと云々榮を對に
 してさうあるすなり

故ハ鄙諺といつたとあり男をせハ狼也といふ
 ことと猶其匹を居人たとを恐女をせハ卑の
 こととをいふ猶其虎を人たとをいふは
 すめりやを修大と敬と志く大とるハ疆を
 大とハ順と志く大とるハ敬と志く大とるハ
 大禮なり史故ハ它ハ次持久の謂なり史順
 它ハ次寛裕の謂なり持久ハ止を知らず寛
 裕ハ恭下を尚なり
 鄙諺といふ今世にハ常々此言葉に多し
 其時乃いやき人なりといふなり

榮を引ひきてさくらう男おとこをせは狼おおかみれどくちと
も猶なほ其その旺わうる人ひとをせは狼おおかみれどくちと
とてやせをとりあふをいふこのやうに男おとこ子こを
せはいふぬ剛かう彊きやうなうと狼おおかみれどくちと
そのうへも旺わう贏いのやまひある人のどくちと
のやまひある人ひとと成なり恐おそるなり恐おそいさひいひ
榮えあり是これ男おとこ子こハ強つよかうにんは成なりいよきとを
うなり女によをせは氣きのやまひある人ひとと成なり恐おそるなり
虎こある人ひとと成なりたれと女子おんなハいふぬ柔弱じやくじやくよとの
やうなる人ひとと成なりたれと女子おんなハいふぬ氣きれどくちと

と猶なほ其その旺わうる虎この極たぎるなりとをせは狼おおかみれどくちと
つは女子おんなハ弱じやくうへにも成なりたれとをせは狼おおかみれどくちと
なり此この二ふた句く鄙び諺ぎやうなりと道みちみちなりしてたれと
時とき乃しか人ひとの常つねなりと成なりたれと女子おんなハいふぬ氣きれどくちと
すきと榮えをとりあふをいふこのやうに男おとこ子こを
せはいふぬ剛かう彊きやうなうと狼おおかみれどくちと
そのうへも旺わう贏いのやまひある人のどくちと
のやまひある人ひとと成なり恐おそるなり恐おそいさひいひ
榮えあり是これ男おとこ子こハ強つよかうにんは成なりいよきとを
うなり女によをせは氣きのやまひある人ひとと成なり恐おそるなり
虎こある人ひとと成なりたれと女子おんなハいふぬ柔弱じやくじやくよとの
やうなる人ひとと成なりたれと女子おんなハいふぬ氣きれどくちと

前をうきてもくはふとくのとるれはといふとて又
後を起さず集るうきつとてはふとくといふとて又
くともちとて敬人をもやまい心かちんといふとて
くともちとて敬の外は道ち敬をまふとてといふとて
なり彊きいともちとて彊と彊とてぬきハ必ずとて
ハ彊りあてはるそののちとてなり其れはさく
おハ順又とてなりなり順をあてはるはさく
ふなりとてなりなり後して先うはるをい
ふ友ハ曰敬順の道ハ婦人の大禮なりとて敬順
此道をよくいふとてなり此を修るは敬と彊

をさく敬の順を合ていふなり禮ハ禮義禮讓
婦人の禮義ハ敬順ハ道なりとて誠なり
敬ハ它にありて持久の謂なりとて又ハ端を
あてたてて集をたてて敬順をふてびくり
さくなり敬ハ它にありて敬といふハ外
ありとて持久ハ謂なりとて持たたぬなり
にふをさくともちたふとてさくといふ久ハさく
きにありとてなりとてさくともちたふ
此見きく間ハさくなりあるものありす
にふをさく又順ハ它にありて寛裕ハ謂なり

と六寛ハ申るや裕ハ申る如くことなる事
此より申る持久之止足を知と止と
うかたぬ如く是ハ多きを以て是ハ少きを以て
其所より居る如く寛裕ハ恭下を尚とハ
恭下やとくばしむる下人みくさる已を後
すもれ有る寛裕の道ハこれ恭下を多つと行
と有此後敬順の道を深切めりかといふ
しむる有

夫婦ハ好ハ身を以て離るる房室ハ周旋
く遂る媒贖をせむ媒贖既せむハ諸玄過矣

諸玄既過ハ縦恣一ならず作縦恣既作と
を侮れ心せ矣止足を以てこれにすれば
夫婦ハ好ハ身を以て離るる夫婦ハ際
夫ハ婦をたふさる婦ハ夫をたふさる
互みとて一とていふをいふ事と離る
とハ生死をたぬくたぬる有る房室ハ周旋
一遂み媒贖をせむハ房ハ好ヤ室ハ居間
有る周旋ハ好ヤ好ヤ媒ハ有る事と離る
ハけく有る夫婦ハ朝夕その居所をたぬく
し情愛ともは深きハ遂にの深なる

にさうてきくすくすくはせざる那も媒贖既
せれを諸言過とて諸はうるれあり云ハ
このいふもけりあやうつとハ言葉のゆきよう
第一あふけり諸言既過ハ縦恣のめり次化
と縦ハワう恣ハけりいもうる諸言のあやま
うしそわづきやういふも出来けり縦恣既作
とそハ史を侮れ心せすといやうけり心せし
史をあるとやういふかやうめり心せし
おなりや道止をきく所なりよれるものなり
とハ止は前みづ持久に止をきれといふん

那も

史事に曲直あり言ふ是非あり直なる志ハ争ふ
ふとあふ曲なる志ハ訟とてあふ訟争
きてふ施とてハ心怒なりとあり此恭下を尚さるめ
よれるものなり

事に曲直あり言ふ是非ありとハ言行を並べる
けり事とハ行せ今日けりあふけり曲直とハ曲
はやれり直ハさくやうけり是非とハ是非
きけり非ハあふけり直み對しめ是非といひ曲
み對し非といふなり直なる志ハ争さるるあ

多きなり也なりなるに訟ざる事ありとハ争訟の
つゝ起るるを解滅されし事ハ大なる
小なりと云く直と曲と情意乖く和同と
成直なるものなり曲とのを争ふめだりし玉
也ものハ直なるものなりつゝく非を理す
志ありいひる人といふところと云ふ争訟やむと
なり一家治るる玉と云ふ訟争既施と云ふ怒
怒のともありと云ふ怒いといふなり施いし
をよむなり新といふなり争訟つねは徳を
れをうけしすいひるをよりてあはれみいふい

るふむをいふなり此恭下成尚されみされるもの
なりと恭下を尚されハ争訟怒怒のよりて
いふのよりと深しむなり
ありといひく其下曲直の解ありと云ふ是非の解なり法本を参
校するなり其ののよりと云ふは曲直の解にて是非の義をよりと云ふ
志なりと云ふ言の滅をよりと云ふは争訟の解のよりと云ふ
いふものなり一書の終裁丁寧に告滅いふ所の解のよりと云ふ
がものなり又あるや下曲直の解のよりと云ふは争訟の解のよりと云ふ
志なりと云ふ言の滅をよりと云ふは争訟の解のよりと云ふ
史を侮節なりこれハ譴呵にたりと云ふ怒怒止
されハ楚權にたりと云ふ史史婦たれとの義
ハ和をいふ親と恩ハ好なりと云ふ合楚權に
に行きハ何義なり存る譴呵に宣

にや一たびをいふ楚捷をてにをこるる
まは何れ義うられ存とに存に在なりや前
をうけぬたては楚捷れあくるきいれは
和をりてさうじの義れあどとる謹可
下は宣れ何の恩ういとお人といれ謹可
れりきにこれ好をりあふのい
るるこれり恩義ともふ泰られは夫婦
矢と泰はこれやうなり前ふた恩
義二ともやられこれ義れ和をり親
恩れ好をりあ合る皆これてたにふ

夫婦の終所離べうられしをいふ新
と誠る那と

婦行第四

婦行と行心め主とすう乃事め見るを
いふ婦たるもの帯をこるふてを誠る

女に四行あり一曰婦徳二曰婦言三曰婦
容四曰婦功

六の四行は周禮乃冢宰我父子文あり下れ
順るたて其義を解さる

さうれどもあつたれども婦功といふは
ふすし功巧れ人みされたるにはあ
がれずといふ婦功といふ婦人のほどもある
やうのと那功巧といふ其やうな多くんま
ちとちうと過たる人まういふやうに婦
人志功といふは其のやうな多くんま
人子勝たれといふはあつたれといふ
下の條に曰われ曰れたることをいふ
ゆゑにまういふ曰れのやうに婦人顔色功巧
といふことを説くはあつたれといふ

清閑貞静の節を守て整齊をいふは
ありて動静法ありて婦徳と謂ふ
清閑貞静の節を守て整齊といふ清閑ハ
きよくいふやうな貞静といふは志のやうに整
齊といふはいふやうな貞静といふは志のやうに整
とちうにこれをいふはありて動静法ありといふは
吾をいふやうに今日乃ちいふはありて
てといふはありていふはありていふはあり
いふ動静は立居るはありていふはあり
いふ法式といふはありていふはありていふはあり

と前より智慧といふ人きこれてうきと
も此清閑貞静よりその都をばらふ等の
ことば背ハ婦人れ徳といひさくさふのふると
ふのいふを婦人の婦人たる徳と謂べしと
明や

辭を擇く説惡語を道とて時ありて然し後
いふ人厭す是を婦人と謂ふ
辭を擇て説惡語を道とて辭のいふと擇
といひて成とてよ成えといふなり説は
なり惡語といふとてなり道に言とれる

これありといふとていふなりをいふに及
ざるといふなり時あり然して後いふ人
み厭ふといふ人いふなりをいふなり人
を所をいふいふ人ありはありいひたり
人これ心なりといふなりといふなりといふなり
をいふ人いふなりといふなりいふなり
たといふなりいふなり人いふなりいふなり
言なりいふなりいふなりいふなりいふなり
いふなりいふなりいふなりいふなりいふなり
や

塵穢を盥浣して服飾鮮潔沐浴時を以て
て身垢辱を去る是を婦容と謂ふ
塵穢を去るを盥浣といふは洗ふなりと服
の衣を飾といふは飾なり鮮きは明なり潔
きは清なり清く明くは浴は髪を洗ふ
浴は湯をつくるなり垢辱はあつちを去る
髪は湯をつくるなり髪を洗ふは湯をつくる
とありあつちを去るは湯をつくるなり
とありあつちを去るは湯をつくるなり

此風俗なりうの衣被るも美粧をつくるも
やまを去るなりを去るは湯をつくるなり
れといふに婦容といふは洗ふなりと謂ふ
を紡績り専に戲笑を好み酒食を繋齋
を紡績り専に實客を奉るを婦功と謂ふ
心を紡績り専に前めふなり紡績り
夢をいびくは織造の通じて専
は其の心に心をいびくは織造の通じて専
は其の心に心をいびくは織造の通じて専

リくたを造つてをさるるのまぶれあり酒食
を繋齋してと飲食もれをさるるをこれと
れなり賓客を奉じてもは賓客さるるを
奉じてもはこれとさるるをこれと
めりともを女子れにめりともさるるをこれと

此の女の女人は徳うさるるをこれと
のなりともこれを為と見易く唯心を存する
にある耳古人に云ふに遠く人我我仁を欲
まはさるるに斯く必笑と此謂あり

此の乃の女は徳にいふもつれ婦徳婦
徳婦容婦功乃をいふなり女人は徳
にてさるるをこれと徳の解ハ新
みのふさるるをこれと此の女の女子
守るる最大なる徳の行にさるるをこれと
さるるをこれとさるるをこれと
さるるをこれとさるるをこれと
唯他念なく此をさるるをこれと
さるるをこれとさるるをこれと

いづるありとハ前まへハ為なすこととをある
がふに徳とく援えん古こ聖せい人じん也なり仁にをうけして
をあるがふ仁に遠とほく人ひと我われ仁にをうけして
仁に斯しかる至いたる論ろん語ご述じつ而して篇へんは孔子こうしの
たふし語ごなり仁に徳とくあり外ほかにあり遠とほ
新あらたなるものあり近ちかきにあつるものあり遠とほ
にあつるやこれ近ちかく子こなるが斯しかる
のありあるをいふものなり我われ仁に道みちをうけして
人ひとと教おしむべきにあらざるなり
謂いふなりといふはものなり
三十一

ふたつありと福ふくいふれは徳とくあり
ふたつありと此この語ごの通りと教おしむなり

專せん心しん第五

專せん心しんとハ專せんに力ちからをこめて心しんをこめてする
をいふ婦ふ人にんの道みちハ夫そとハ夫そとハ心しんをこめてし
すにハ禮れい義ぎをこめてし戒けいする
ことあり

禮れいハ夫そとハ再また要よめれ義ぎあり婦ふ人にんハ二ふたつハ道みちの文ぶんなり
禮れいとハ儀ぎ禮れい喪さう服ふくハ文ぶんあり夫そとハ再また要よめれ義ぎあり
夫そとハ男おとこ子こハ兩りやう度ど妻さいをうけしてし古この禮れいなり

ルあるとせむと婦ハあつて通乃文なりと女子
二度人の妻とせむを再他人は嫁とせむとい
ふと古文めりてすといふ
ちきと天下の大経を今の通説より易くしけるなり但依禮
の喪服は継母嫁するの服をよひ継父異父兄弟の服あり此等
嫁とせむ婦人ハ幸すて再嫁するものあるを聖人ハ許さずといふ
之よりちきとハ禮の變義の權よりて預私ハ後すつてある
程伊川の嘗婦人多くあるとて餓死するより再嫁すべきはあつて
る禮の經をあるの誠あり又伊川その父程太中ハ其の中は女
悲をせむと婦人を再嫁せしめざるを礼の喪服をせむもの
の有りたるは伊川を伝ふるの輩國の誠を執る依禮の喪服をせむ
がふといふと伊川を執る百を棄てて礼を執るといふと再嫁
ルよりあるふところなりと程の歎を思ふ禮ハ身を棄て
る人罪の大なりといふなりとくに再嫁ハ寡婦ふつて身を棄て
るといふなりと伊川を傳ふるものよりて禮の變義の權はあつて
之より世の人より此義をきき人にて伊川の誠を固執る聖人制禮の
意をききしるもの輩もあつてあるなりとて伊川より室直清の条あり

故曰夫ハ夫なり天國逃遁して夫ハ國難ヘカ
行神祇ハ違て夫ハ夫なり
罰を禮義愆あふとて夫ハ夫なり
故リ女憲ハ曰意を一人ハ得る是を永畢
といひ意を一人ハ失はざるを永訖といふ
故リ曰ハ新れ文をふ又下れ文を起す夫ハ
天れ天國逃遁して夫ハ國難逃遁して夫ハ
夫ハ天れ夫より夫へ去つてはくといふ
さうてかこふなり夫ハ天の地あるに夫
を夫より夫ハ天れ逃遁して夫ハ國難に

るべくも水と云へざる所と誠なり行神
祇と違ふ天の道を罰せし行つるのる
やふと子神祇ハ天神を神といひ地の神を
祇といふ所行その道に違ふ天天神地祇
のうらみをもふり罰ハ刑罰なり人乃惡
事をなすはれく乃重輕よりあると人
あれごとく有神祇の意は違ハ天神よりある
ことめやふし其成ふをふとなり禮義徳ある
とてハ夫ら所より道を薄くしハ禮義ハ夫に
仕るハ禮法なり其の禮法をあるなりハ

ぬをいふ薄くしハ厚く表裏あり夫より禮
法を失れあやまちあれハ夫は薄くしハ夫婦
ハ際恩情ハありとべからうはくありゆく
とあり夫婦ハ礼とあり天より命せざる
自然の倫理あり夫とあり婦とあり其の夫平
仕る禮義徳ありと薄くしハすめり天
の罰をいふぬとあり故ハ女憲ハ曰ハ憲ハ
とあり女子ハ法とありと云ふハ王相ハ任
るに其の意をいふ意を一人み得るは永
意を一人み得るは永訖といふとハ意ハ

心のむふとありあり一人ハ夫をいふ天女や
あきふくしとてぬらうとてさるしとて一人と
あやう水畢ハさる其ををさるさるされいふ
とて禮義の愆あるとてをせむをさるふ
とてありとて夫のさるさるさるぬらふとて
婦乃際和合しとて水安樂とてそのさる
とてあきとて水ぬらふとて水ぬらふとて一人
とてさるさる其裏をさるさる一誠あるとて水
読とてあき禮義愆あるとて夫のさるさる
さるさるさるさる夫婦乃あきふ不和さる

高僧を以て終り水読とてふとあり読を
盡せ

斯由さるさるを言ハ夫ハ其心を求すといふ
とて然とて水ぬらふとて水ぬらふとて一人
親を謂ふとてあきとて水ぬらふとて水ぬらふとて
義ありとて水ぬらふとて水ぬらふとて水ぬらふとて
目邪視とてさるさるさるさるさるさるさるさる
廢さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
を看視とてさるさるさるさるさるさるさるさる
多とてさるさるさるさるさるさるさるさるさる

あり由るべきをいつとハ前の條にいふごとく我
 さしつゝあり又ハ其心を求むにあらず
 次ハ前より一人ハ意を得るをいふ其意を
 得るハ多ク次ハ其心を求むとあり然るも求む
 るは其の心より依媚して苟親を謂ふあり
 するといふ依ハ口を以てはくめて居りある
 媚ハ其心より依媚するといふは其心より
 多し人を求むるの謂ハあらずとある固心
 を求むる心を正し禮義ありて繋る居る

くはるべき色ハ顔多寡貞とあるを正
 明ハはるちいやとありにハ又ハ依はる
 禮義を正し其系中より色を正し身を正し其
 所を正し其くはるを正し其くはるを正し
 ありよきありといふとあり耳淫聴するを目
 淫視するを鼻とありハ色を正し其くはるを
 いふなり淫聴ハきくことたりなりきなり
 淫視ハ見ることなりとありハ治容ある入て
 其飾を廢するを正し其くはるを正し其くはるを正し
 其くはるを正し其くはるを正し其くはるを正し

有り出^でる門^{かど}戸^こを出^でる入^いと、家^{いへ}に居^ゐるをいふ所^{ところ}に
 内^{うち}外^{そと}といふに、ある一^{いち}女子^{むすめ}は、やむいふ所^{ところ}に、夫^その
 夫^た對^{たい}しては、禮^{れい}義^ぎとて、他^たは、てゝゝ、いふと、むづか
 しい、と、いふ、を、門^{かど}戸^こを出^でる、と、いふ、を、いふ、は、
 夫^その對^{たい}して、これ、道^{みち}を、り、な、い、う、の、道^{みち}を、り、な、い、
 此^この、人^{ひと}たち、も、ある、ゆ、に、い、ふ、と、て、平^{へい}々^{ぜん}と、家^{いへ}に、居^ゐる、と、い
 ふ、を、いふ、と、いふ、衣服^{いふく}、も、足^{たり}不^ふに、これ、又^{また}、夫^その對^{たい}して、は、禮^{れい}義^ぎ
 を、いふ、と、いふ、を、いふ、と、いふ、乃^{すなは}ち、心^{こころ}に、け、足^{たり}不^ふに、
 ぬ、や、と、いふ、を、飾^{かざ}を、廢^すす、と、いふ、と、いふ、と、いふ、廢^す
 す、と、いふ、と、いふ、世^よ上^{うへ}の、人^{ひと}、は、い、ふ、と、いふ、と、いふ、と、いふ、

ところを足^み苦^くし他^たはむろふ^ふの^のめ^めこむ^こくよ
 そはひ^ひの^の誠^{まこと}なる^{なり}群^{ぐん}衆^{しゆ}を衆^{しゆ}舎^{しや}する^す
 ところと^と群^{ぐん}衆^{しゆ}はむろふ^ふの^の衆^{しゆ}はむろふ^ふの^の衆^{しゆ}
 今^{いま}の^のい^いと^とい^いあ^あの^のう^うに^にほ^ほく^く人^{ひと}を^をあ^あの^のえ^えの^の
 あ^あい^いを^をみ^みず^ずう^うみ^みさ^さる^ると^となる^{なり}の^のう^うに^に戸^こを^を看^{けん}視^し
 ところと^となる^{なり}と^と戸^こ人^{ひと}乃^{すなはち}出^で入^{いれ}は^はる^ると^となる^{なり}
 看^{けん}視^しは^はみ^みふ^ふなり^{なり}帰^{かへ}人^{ひと}は^はみ^みふ^ふに^にか^かへ^へか^かる^るを^を
 戸^こを^を見^みると^となる^{なり}と^となる^{なり}此^{こゝ}を^をす^す
 なる^{なり}心^{こゝろ}を^をす^すに^に色^{いろ}を^をふ^ふと^とい^いふ^ふと^と前^{まへ}より^{より}
 ところを^を結^{むす}く^く誠^{まこと}なる^{なり}と^となる^{なり}

歌舞伎の如きものだぐむ見せしきとてこれ
よのを見をいふなり此を心をきくに一色を
正しきとありてなりといふなりといふ此をといふ此條
をいふなり此をいふなり此をいふなり此をいふなり
とてなりなり果てなりといふなりこれ此の道
を失ふとて迷誠るなり

必從第六

曲はまゐるなり從はまゐるなり正をまげし心
なり此をなりなり物なり此をなりなりて人なり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

大意を一人み得る是を永畢とて意を人
み失是を永訖といふ人乃志をいふ心なり
と欲れ言なり留姑の心なり失てえん物思
をいふ自離るなりあやなり義をいふ自
破るなりあやなり

永畢永訖をいふなり留姑の心を
いふなり解なりなり志なり心のゆくこと
なり定なりいふなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

とていへばなりけり舅姑乃心を齊人固又曲後より
り尚にきくといふ人せんかめさうめさうめ
ろ那や夫れ愛といひ舅姑の非ありと
ふ何れ志とふひや義を立て夫れ志とふ
舅姑乃心いふあるべしけりさハ海とた
義をもちて舅姑れ心平とてふより尚大とそ
有とふる
義をもちて破るは解あり義をもちて自破るものありといひ今より
さか上文敬の意を直に解ありと非の解もさういふ義をもちて
姑爾らふとてこれをとるは是といふ固より今從
べし姑爾れとて非といふは猶更命り順べし

是非を違度一曲直を爭ふとてとて得る
がれ此れなり所謂曲從なり故に女憲は曰婦
ハ舅姑れとて馬賞とていふ人
姑爾らふとてこれをとるは是といふ固より
今よとていふべしとハ爾然なるは是ハよ
ア今ハ命令を仰とてさうとていふ
めとていふとていふとていふとていふとて
とていふべしとていふとていふとていふとて
より今に順べしとて非ハむとて猶ハこれ
いとふとて命り仰とて順とてたるは義又

志をばへきよきことをむかひとありといふことを猶ほの
仲又順徳一とあり是非を遠慮一也直を争
就らるるを得ることをとあり是非はあり
多かり遠慮なきひとあり也直はあり
なぐなるあり争分とあり是非といひ非を是と
いふを非乃是非をあるといひ是非を是非を
非と明白分をいふなり是非は人み従り
は直あるといひいふこととあり是非あるといふ
事とを得ることをとあり此すあるは所謂曲
後此とあり前よりいふこととあり此すあるは曲と徒

とありとあり女憲の前にいふことと女子は法とあり
物をいふ婦の影響れどもと影響のわけあり
形あり影あり聲あり響あり影に形はさるひて
あるは響の聲よりしてはたれものなりとあり
女子は影と等乃形とありひたにつれとあり
意を意とを次專人といふこととありとあり
馬賞一とありとあり馬の何とあり賞は嘉なりと
する訓なり此とあり女子よく人より順とあり人
よていふこととありとありとあり是女憲の
後をいふ婦あるとあり男姑のさることとあり

五

和叔妹第七

戒
3
好
人

婦人此志を丈夫に得るは舅姑乃已を愛
さる由り舅姑已を愛さるは叔妹已を
愛さる由り此み由り此をいへハ我臧否毀譽毀

一いつ姉あね妹いまいよりより也や
 一いつ姉あね妹いまい乃な心こころをを復またししめめべべ

婦人^{ふじん}は意^いを夫^こに得^えるは舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}を
 愛^{あい}するより舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}を愛^{あい}するは叔妹^{ちやくまい}乃^な
 已^{をのれ}を愛^{あい}するに非^なず夫^こを愛^{あい}するは舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}
 を意^いを夫^こに得^えるは舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}を
 愛^{あい}するより舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}を愛^{あい}するは叔妹^{ちやくまい}乃^な
 已^{をのれ}を愛^{あい}するに非^なず夫^こを愛^{あい}するは舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}
 を意^いを夫^こに得^えるは舅^{きやう}姑^この已^{をのれ}を

れは叔妹の心しやうしめふ親うべし臧否はよ
しありやう笑毀るるれしやうなり新いそ
ふろにやうて言とき我めれやありはまれ
るあるといふは叔妹とむつましく親く
の心をさうめふしやうなり是叔妹の平々
舅姑の側より居るものなりゆきそれと不和な
舅姑への執有あり舅姑乃様嫌をとりけ
るふなりやうのとき世にありある人
の婦人多しものしく有思へるなり
人皆叔妹れ失へしはれしを知らなくしるふ

きを和しめし親を求るふとありやう敬う那
人皆叔妹のうけふしやうなるを知らなくし
妹の際をうけふしやうなりをとりけ
那うしやうもたきを和しめし親を求る
ふありやう敬うふと叔妹のうけふし
くされしを求るふとありやう敬うふ
たきありやう敬うふと叔妹のうけふし
道理めくしやうなり歎めるふあり
聖人なり非なり能過るふし鮮し故み顔子なり

く改るを貴仲尼ハ其の貳を所を嘉するを
を況婦人なるものをや

聖人ハあらずといふ能く過る事ハ鮮くハ聖
人ハ世に於て萬物乃情通ト天地之德
を合れ称するされ言はれり聖人ハ下
の人ハあらずなりと其の次と有り顔子ハ純
改るを多しといふ仲尼ハ其貳を所を嘉
ハ顔子ハ孔子乃弟子顔回ハと有り聖人ハ
よふ顔子ハ孔子乃弟子顔回ハと有り聖人ハ
連ハ其過をあらたむと有り貴ハ其過を教

必然の勢なりといふ是故ハ前をうき後を
を起る家人ハ家内の人と有り和ハ
て志ハ禮義を失はれり家内ハ
ありと有り他人ハ
内新るに相互に誘はれり世上一ハ
れ要するに相互に誘はれり世上一ハ
ありと有り必然なる次と有り

易をよびてめとてえとてれ義有り易曰二人心を
同すれば其利と金を断同心の言はれ其利
と蘭乃とて此謂有りとい此句ハ易经繫辭
傳とハ中れ語有り二人心を同すれば其利
と金を断とハ二人和合するとて其心の堅
固又とて金鐵を断とて此同心れ云ハ
其臭と蘭の臭とて臭ハよきに在ひ有り
有り蘭ハ清香とて香き物有り心を和する
とて睦人の言はれ此句の花乃有りとい
いといれりといて多きといとて此謂

飾とて有るハ仲尼ハ孔子れとて孔子ハ其の
道を貳とてこれを嘉たずとて有り道を貳セ
ざるハ其道をあてたて重てせむとて
その此章ハ諸ハ論語をよび易经繫辭傳
とハ有り見えうとて此況婦人たるとて
とハ顔子とてあやうとていふ人ヤ婦
人れとて有るハ道をあてたて重てせむ
賢女ハ行聴哲ハ性をもつてとて其性
備ずといふ人家人和とて有るハ諺掩外内
難とて惡揚これ必然の勢なり易に曰二人心を

同^{なり}き^きれ^れハ^ハ其^{その}利^{とく}を^を金^{きん}を^を断^た同^{どう}心^{しん}也^や言^いハ^ハ其^{その}の^の自^{みづか}臭^{くさ}と^と蘭^{らん}の^の大^{だい}と^と小^{せう}と^とハ^ハ此^{この}謂^いれ^る

賢女けんぢよれ行聰ぎやうそう哲ていれ性せいをもめとすれとて、
 備そなへずとハ賢女けんぢよハ人ひとはさくぐれ、こゝ女をんな有あ性せいは
 まれに有あ備そなへハ少すこルハあつゝあるをいふと心
 前まへれ言い榮やをうけく多おほく人ひとはさくぐれ、こゝ
 ともたといさきとくあき、こゝをせしはきの人ひと多おほくも
 それ能よくサレハあつゝ乃すなはちまハあつゝ有あ聰そうハ耳みみ
 と有ある哲ていハ、こゝ性せいとさきハ不ふ知ちと、是この故ゆゑ
 小こ家け人じん和わささるゝと、ハ謗ろう掩えん外がい内ない能よくと、ハ惡わる揚やう此これ

ずとは是等々語ル此より和合し一心之樂乃
多がい世にさうしと謂ふ所なりといふとある

史し叔しゅく妹まい體てい敵てき一いつて分ぶん尊たう恩おん疏そ一いつて義ぎ親しん若じやく
 淑しゆ媛ゑん謙けん順じゆん此こ人ひとハ志しハ明めいハ才さい能のう義ぎみ依よハ心しんハ好かう
 也や篤あつ一いつ恩おんを宗たうてハ心しんハ援えんを結むす微き美びを一いつ也や
 顯けん章ちやう一いつ黷じやく過かうを一いつて隱いん塞さいを一いつてし

史叔妹ハ體敵して分尊とハ叔妹と已ハ乃位
乃體をいハ同輩にして一々尊卑ハ是
別ルをいハ已ハ嫂と稱ハ彼ハ叔と妹と稱
已ハ分尊よりハ尊あり恩疏よりハ義親とハ叔

妹と正と白とより異姓めそ他人なるおのゝ
 の恩ハ疏るまじく叔妹ハ己が丈と骨肉れよゆ
 へ義理あひにそ、あ親むつろくさふしあり
 ルー淑媛謙順人そそれら能義ヲ依て
 めく好を篤一恩を崇めていゝ援を結と淑
 順人そあづぶ那ういゝくよく人々
 古のなす婦人そ叔妹ハ丈は骨肉れよゆ
 ふ義理よりそ平睦をべきしそ紙あけり
 のつくし文べき道をたいてい行てにか援と

するてあましくさるをとりむらふとちう援を借
 と八平日叔妹と親むらうとちうおとまはり過
 舅姑の様姫をとる持とるふとあましく叔妹よ
 く己とあましく執成て舅姑の怒をも宥得と
 明く微美をとり顕章ありと過とちう隠寒
 と一ひと微美はうとりくよましくとちう顕章は二の
 とちうあましくおとちうなりと過とちう隠
 寒はかくれずとちうなりとちうおとちう
 とちう叔妹と好を篤とちう援を借とちう
 けくよましくとちうあましくとちうえあましく

おどあそいといふれぬさうて外へもれさへえ
婿なり是叔妹の援よりすよりあ耶ア
舅姑矜善して夫主嘉美と聲譽邑鄰
曜休先父母は延る夫意思人々叔をい
ふははれりそあ託して自高り味りを
いへるなり寵り固くして驕盈なり驕盈既
施を何れ和るい道あ人恩義既乖ハ何の災と
と孫人
舅姑矜善して夫主嘉美と矜善ハあハ
ととよふはれり嘉美ととと不ひなり上は迷

舅姑とて舅姑のつとめとて夫れと
一なりあはる聲譽邑鄰は曜休先父母
延とハ聲譽邑ハよる名はれなり邑はと鄰ハ
とあはる曜ハ先の物は照るなり其譽近
ハ鄰遠ハ一邑ハ中へさへえなり休光ハ
よるむなり父母ハ我實ハ父母をいふに
聲譽邑鄰ハあは父母とて其光りを
よびて諸人共ハ父母とてはえなり
一尋れ名稱乃きえはと點辱ハあはといふ
ふはれを見むといふ者合てるなり若夫意

愚れ人ハ叔ヲをいふはるる名ヲ託してあ
く自高ガ妹ヲをいふはるる名ヲ寵リ因ても
つゝ驕盈なりといハ意愚ハ二字といふをうとよ
むなりといふをうとよ婦人をつふ叔をいふ
はるる名ヲ託して自高ガ妹ハ已ハ嫂といふ名め
れく叔をいふはるる名ヲ託して自高ガ妹をいふ
はるる名ヲ寵リ因ても驕盈なりといハ妹をい
ふはるる名め
くいハ已ガ夫ハ寵愛を得るをいふをいふ
ニめをいふはるる名め驕盈ハをいふはるる名め
はるる名めをいふ驕盈なりといハ妹をいふはるる名め
はるる名めをいふ驕盈なりといハ妹をいふはるる名め

とある人恩義すぐみ乖ハ何の哭云これ驕令
ハ驕盈ハ心叔妹ハ施をいふはるる名め叔妹をいふは
親といふはるる名めハ恩義をいふはるる名め
違はるる名めハ已ガ妹をいふはるる名め
といふはるる名めハ第一をいふはるる名め何ハ名稱のきとめ
く驕辱ハ遠ぶかハ妹をいふはるる名めハ恩義をいふはるる名め

是をいふはるる名め美隠く過宣姑忽て夫悞毀世書中外
ハ布恥辱願ハ集進てハ父母乃羞を退退てハ
思子ハ累を益斯乃榮辱ハ本より顯否ハ基

とあり斯乃榮辱れ本より顯否れ基なりと
ハ榮いさへ辱きとあり上めいさへく微
美顯章微過隱塞されハ榮とあり此れが
ハミ顯て過宣れハ辱とありハ榮辱の
本と顯否ハありとぬれとあり基
ハ始より慎りて人なりハ慎りて人なり
ハ深誠るまじき然とハ叔妹の心を求む
固み謙順より尚ハ叔妹のころをも
とめ得るよくハくたうとハく持め
ろよとありハくたうとハく持め
謙ハくたう

ハ乃徳の柄なりハ易經繫辭傳乃文なり徳
ハ我み得とろ乃より行なり柄ハえとろ
ハ是ハ柄なりハ用をるハく謙
徳乃柄より謙なりハ徳ハ行ハく
ありとろハ徳ハ第一とろ
あり順ハくたうハ婦の行なりハ婦人ハ行
人ハ順てハくたうハ第一とろ
斯ハ二ハくたうハ和ハくたうハ謙
順ハ二ハくたうハ行ハくたうハ叔妹
の際をやりげじつハくたうハくたう

曹大家女誡王相箋註

卑弱第一

常若畏懼是謂卑弱下人也王氏箋註是謂の二字あり

勿憚夙夜王氏箋註勿を不々作る

黜辱之可遠哉王氏箋註遠を免作る

夫婦第二

天地之弘義王氏箋註弘を宏々作る

獨不可依此以為則哉王氏箋註依を以々作る此字の下に字あり

敬慎第三

生女如胤猶恐其虎張氏校正本虎を彪々作る按さうは彪は犬家う又の名あり百これを避くよう々諸

本は從小個張氏校正本彪々作るは後漢公の唐の章懷太子注やゝものありあゝ高祖の祖父隴西公虎の諱を避くゝものなること

楚捷既行說郭又既を之々作る

恩義俱廢夫婦離矣王氏箋註離字の下に字あり

婦行第四

婦功不必功巧過人也毛氏西本陳氏評國本功を工々作る王氏箋註は技々作る

清閑貞靜王氏箋註清閑を幽閑々作る

奉賓客王氏箋註奉を供々作る

此四者女人之大德而不可乏者也王氏箋註德を節々作る之字の下に無字あり

專心第五

天固不可逃王氏箋註逃を違々作る

耳無淫聽

張氏按正奉寄板王氏箋註及說郭淫を淫と作す
今毛氏正奉陳氏評閱奉と従ふ

出無治容

王氏箋註又出の下
門字あり

曲從第六

舅姑之心奈何莫尚於曲從矣

說郭莫字の下
固字あり

和叔妹第七

得意於夫主由舅姑之愛已也

說郭又主由の
二字あり

叔妹之心復不可失也人皆莫知叔妹之不可失

王氏箋註

復字ありハ非なり又皆字の上
人字ありハ是なり今これ又従ふ

是故室人和則謗掩

王氏箋註
是字あり

外内離則惡揚

說郭又外字あり
王氏箋註
惡を過と作す

夫叔妹者體敵而分尊

諸本叔を嫂と作り又分字あり
今王氏箋註又従ふ

蠢愚之人於叔則託名以自高

諸本叔を嫂と作り今
王氏箋註又従ふ

凡斯二者足以和矣

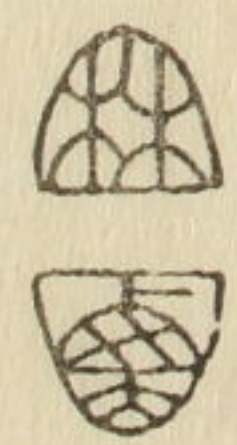
王氏箋註凡
を和と作り

耳熱法...
 山...
 田...
 曾...
 其...
 傳...
 叔...
 小...
 意...
 支...

ちあゝ深き川の君は古大家
 の如城を和ぬーち海を越
 えるるー城を此深きをつ
 けらにふゝ実うーめその
 度部うーく後あるく知ふ所
 大なるあるそ強乃珍ある様
 子弱越いー川らにふ度み秘
 勢んよるるーり様ふのるせ

氏女誠授子女暨婢媵以為閭
閻閭教其言切實平易猶教粟
布帛之不可闕也既而所須漸
多書手拮据訛語相望終不得
已鏤梓而刷印非敢欲廣布也
雖然知遠之近知風之自使世
之女人遂忘免夫卑陋頑固典

較黠驕傲則侯家閭教餘此其
所沿流者豈謂塵小云耶文信九年
蒲節前二日林衡撰



男銳書



